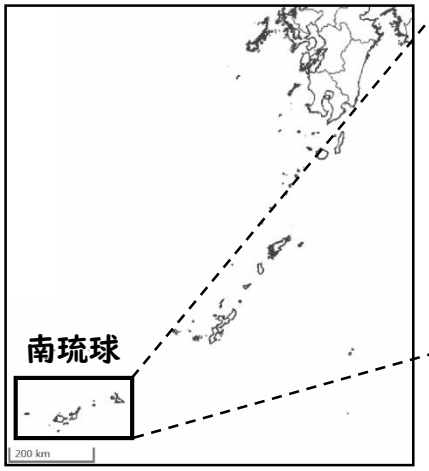
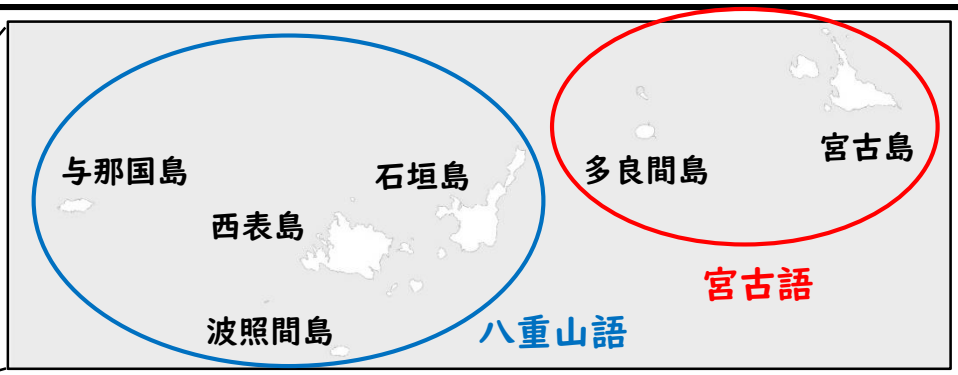
南琉球における言語変化とその可視化

セリック・ケナン（言語変異研究領域）





南琉球諸語は日本列島の南西の果てに位置する島々で話される言語（**宮古語**・**八重山語**）

南琉球祖語 *ツブル「頭・瓢箪」

- 宮古　**ツぐイ゚**「瓢箪」　**かなまイ゚**「頭」
- 石垣　**ツブリゥ**「頭・瓢箪」
- 波照間　**カナバリゥ**「瓢箪」　**アマスクル**「頭」
- 与那国　**ンブル**「瓢箪」　**ミンブル**「頭」

南琉球諸語は同じ祖語から生まれたが、お互いに通じないほど**変化**してきた

単語が**なまる**変化

別の単語になる変化

ちなみに、波照間の**アマスクル**「頭」と与那国の**ミンブル**「頭」の中に *ツブル に対応する部分（下線）が含まれている！

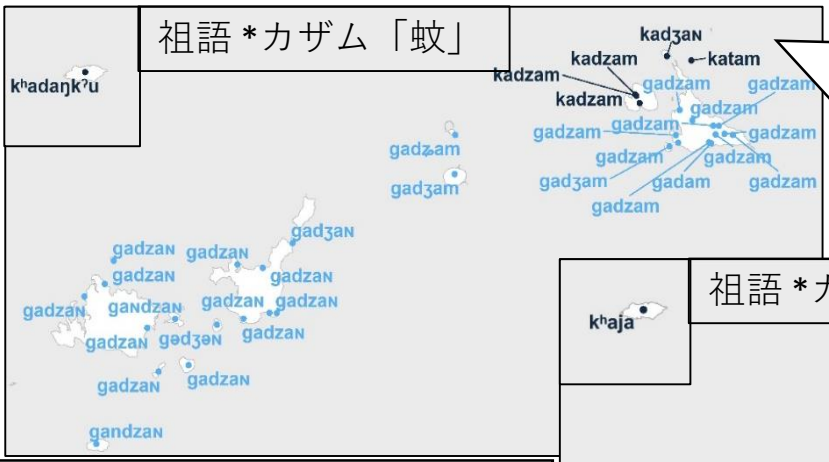
変化の例：**語頭の濁音化**

祖語：***カ**タ「ばった」

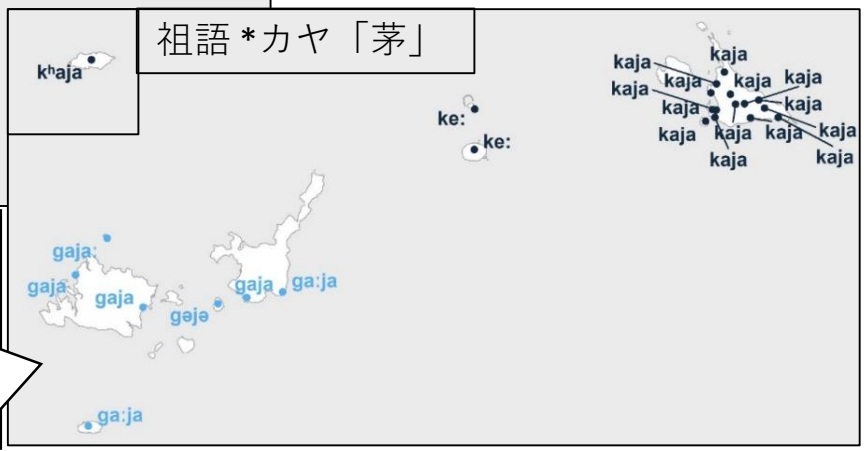
↓

多良間：**ガ**タ「ばった」

南琉球祖語では**カ行**始まりの単語がほとんどないが、今の南琉球諸語では**ガ行**始まりの単語がよくある。地図化を使って、この変化の性質を解明してみよう！



① 宮古語と八重山語では**カ行**と**ガ行**始まりがあるので、***カ**ザム > **ガ**ザムの変化が両方の言語で**並行的に**（複数回）起こっていることが判明！



② **ガ行**始まりが見られるが、その分布が*カザム「蚊」とは違う。***カ** > **ガ**の変化は単語によって起こったり起こらなかったりする**不規則的な変化**であることが分かる！